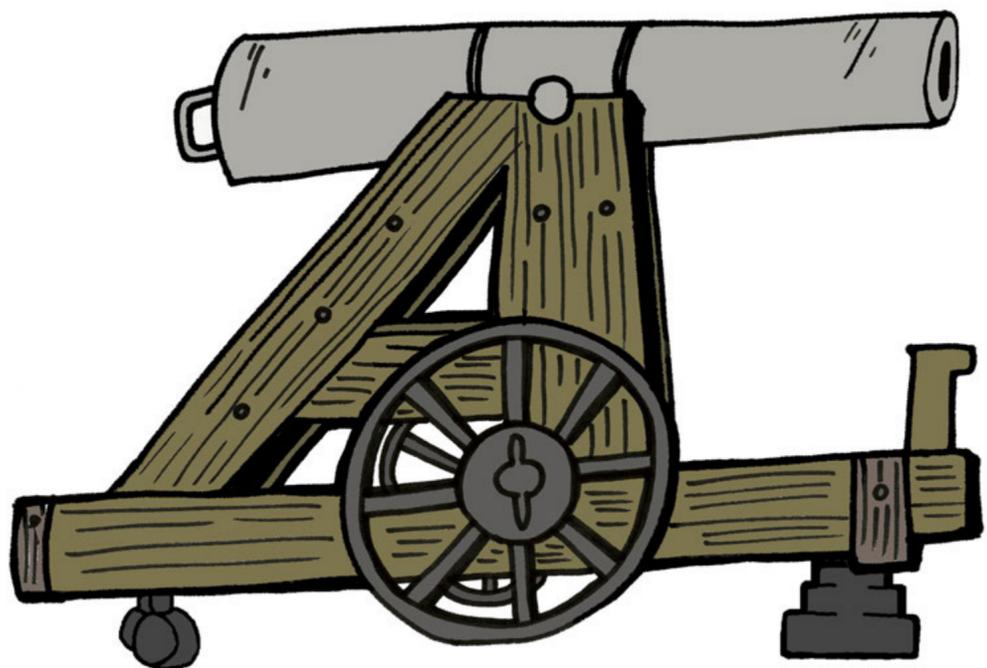


近世の成果（1）

近代化産業遺産群の発掘調査報告書が刊行され、各遺跡の様相が明らかになりました。

150年ほど前の出来事で記録も限られていましたが、残された絵図と考古学的成果をつきあわせることによって、当時の状況を復元することができました。

天保山砲台跡では、絵図に描かれていた荷揚場にあげばの石畳を検出できました。祇園之洲砲台跡では「チキリ石」の有無によって、薩英戦争当時の石垣が残っている部分と、その後の修復部分が区別できました。



近世の成果（2）

教科書に出てくる「富国強兵」と「殖産興業」を先取りした、鹿児島島の先進性をこれらの遺跡の中にみることが出来ます。

なお、芝原遺跡では1802年の万之瀬川大洪水まで、せいれん 精錬・かじ 鍛冶・製鉄関連施設があったことがわかりました。鹿児島紡績所跡では、建物の位置が特定できるとともに、それ以前のちゅうせんじょ 鑄銭所と今泉いまいずみ 島津家磯屋敷こんせきの痕跡も示すことが出来ました。

